

北九州市立文学館 開館20周年記念／第39回特別企画展

森崎 和江展

もりさき
かずえ

響きあういのち、

響きあうことば

2026年
10月24日(土)
»» 12月13日(日)

開館時間／9:30～18:00(入館は17:30まで)

※初日は開会式のため、10:30から開場

休館日／月曜日(ただし、11月23日は開館、翌日休館)

観覧料／一般 500円(400円) 中高生 200円(160円)

小学生 100円(80円) * ()内は30人以上の団体料金

○療育手帳提示者、身体障害者手帳提示者、精神障害者保健福祉手帳提示者及び付添人(身体障害者の方の付添は本人が4級以上)、北九州市免許返納特典カード提示者(条件あり)は無料 ○公的機関が発行した北九州市、下関市、福岡市、熊本市、鹿児島市の65歳以上の市民であることを確認できる証明書提示者の割引は2割

主催／北九州市立文学館

後援／朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、KBC、TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、テレQ、CROSS FM



1958年

表現とは、自分と外界との響きあい、ことばや音や色や形へと対象化させることだと思いつづけてきました。

というよりも、生きることとは本来そういうものなのだと考えるようになってきました。

そして、いくらか具体化させつつ今日の社会や文明と対応してきた思いがしています。

『地球の祈り』あとがき

もり さき かず え 森崎和江——生涯と思想の軌跡

森崎和江は、日本統治下の朝鮮・大邱に生まれ幼少期を過ごします。1944年、17歳のとき福岡県立女子専門学校へ進学し、福岡で敗戦をむかえました。朝鮮の風物を愛し、血肉化して育ったがゆえの「原罪意識」を抱えつつ、地縁・血縁にもとづいた日本の家父長制への嫌悪感、〈女〉を語る言葉が欠如した〈日本語〉への違和感などに苦悩します。詩、評論、随筆、小説に書かれた言葉は、森崎が日本で生きなおそうと格闘した足跡といえます。〈女〉であることを起点に、性、階級、民族など日本の近代社会の「断層」や周縁に生きる人びとに焦点をあて、民衆のなかに息づく「日本」を探し続けました。

展覧会では、寄贈された資料を初公開し、生涯と思想の軌跡をたどります。



1947年ごろ

森崎和江 もりさき かずえ
1927(昭和2)年～2022(令和4)年

朝鮮慶尚北道大邱府生まれ。1947年、福岡県立女子専門学校(現・福岡女子大学)卒業。49年から丸山豊編集・発行の詩誌「母音」に詩を発表する。58年、遠賀郡中間町(現・中間市)の炭鉱地域に転居。谷川雁、上野英信らと「サークル村」を創刊。翌年、女性交流誌「無名通信」を発行、『まっくら一女坑夫からの聞き書き』を著した。79年、宗像市へ居を移し、各地に残る伝承を追って日本各地へ旅をし、『海路残照』、『北上幻想—いのちの母国を探す旅』などを刊行した。その他主な著書に、詩集『さわやかな欠如』、『第三の性—はるかなるエロス』、『からゆきさん』、『慶州は母の呼び声』など。



主な著書

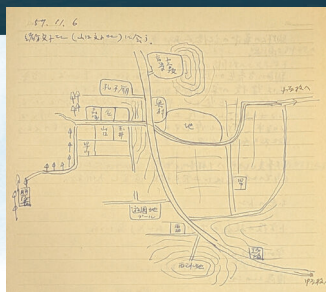
『まっくら一女坑夫からの聞き書き』(理論社 1961.6)、『第三の性—はるかなるエロス』(三一書房 1965.2)、『奈落の神々—炭坑労働精神史』(大和書房 1974.4)、『からゆきさん』(朝日新聞社 1976.5)、『海路残照』(朝日新聞社 1981.3)、『北上幻想—いのちの母国をさがす旅』(岩波書店 2001.2)

私は、ここで、このくにで、生まれながらの何かであるという自然さを主観的に持っていなかった。(略)私は顔がなかった。『慶州は母の呼び声』

ノート「大邱メモ」(部分)

1982.11.6記載

大邱での住居周辺の手描き地図。



「サークル村」を前に

1959

左から
上野英信、朱、晴子、
森崎和江、谷川雁。

写真所蔵 上野朱

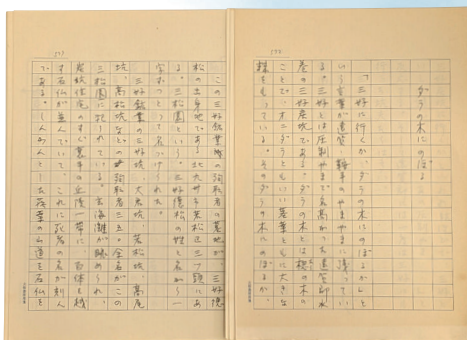
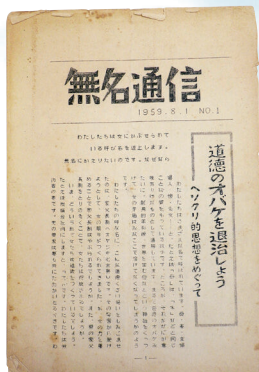


女性交流誌「無名通信」No.1

1959.8.1発行

創刊の文章は「わたしたちは女にかぶせられている呼び名を返上します。無名にかえりたいのです。」で始まり、家父長制のなかで様々な立場に置かれる女性同士の連帯を呼びかけた。

福岡市文学館蔵



原稿「奈落の神々—炭坑労働精神史」

炭坑労働のなかで生まれた炭坑夫の精神史を、聞き書きと歴史資料でたどった。「ダラの木にのぼる」(第二部 創造/第二章 鎮魂—大正期)は、三好炭鉱の殉職坑夫の慰霊のため三好徳松によって1929年に建立された三松園遍照院(北九州市八幡西区)について書かれている。



絵画「無題(自画像)」

油彩。制作年不明。

Event 参加無料

上野千鶴子さん 特別講演会 「森崎和江への／からの旅」

日時 11月22日(日) 13:30～15:00
会場 男女共同参画センター ムーブ 2Fホール
定員 450名(先着)
申込 10月3日(土)から
電話受付 093-571-1505
WEB受付はこちら▶



プロフィール

社会学者・東京大学名誉教授・認定NPO法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)前理事長。

1948年富山県生まれ。社会学博士。専門は女性学・ジェンダー研究。東京大学文学部教授、立命館大学特別招聘教授などを務めた。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。『近代家族の成立と終焉』、『生き延びるための思想—ジェンダー平等の翼』、『おひとりさまの老後』、『おんな』の思想：私たちは、あなたを忘れない』など著書多数。

共催：北九州市立男女共同参画センター

①開会記念講話

森崎和江と「出会う」ということ

講師 井上洋子さん(福岡国際大学名誉教授)
日時 10月24日(土) 11:00～12:00

②文学講座

「半日本人」の日本語—森崎和江の言語意識

講師 佐藤泉さん(青山学院大学教授)
日時 11月14日(土) 13:30～15:00

交差する集団へ—森崎和江と筑豊

講師 大畑凜さん(大阪大学 研究員)
日時 12月5日(土) 13:30～15:00

①②共通

会場 北九州市立文学館 交流ひろば
定員 60名(先着)

③ドキュメント「森崎和江 終わりのない旅」 (NHK ETV特集 2023.12.16放送)

の上映&トーク

講師 吉崎健さん(NHK福岡放送局 ディレクター)
日時 11月8日(日) 13:30～15:10
会場 北九州市立子ども図書館(文学館隣接) 2F大研修室
定員 80名(先着)

④学芸員による展示解説 ※申込不要

日時 11月15日(日)、12月6日(日)
各回14:00から40分程度

申し込み方法 ①③は10/3から、②は10/17から
電話で申込み(TEL 093-571-1505)



● JR小倉駅より徒歩15分
● JR西小倉駅より徒歩10分
● 市立中央図書館・文学館前バス停より徒歩1分
● 北九州市役所前バス停より徒歩2分
● 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
● 北九州都市高速大手町ランプより2分

〒803-0813 北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505 FAX 093-571-1525
https://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/



北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum